



T O K Y O R O P P O N G I R O T A R Y C L U B

東京六本木ロータリークラブ



『エンジョイロータリー』

～Enjoy Rotary～

東京六本木ロータリークラブ会長

W E E K L Y R E P O R T

『夢をかたちに』

～ Make Dreams Real～
国際ロータリークラブ会長

発行日 2009年3月23日

No. 30



平成21年3月9日

卓話 『当社のTN展開』
SMK株式会社 取締役会長
池田 彰孝様



今日のタイトルはTN、トランス・ナショナルですが、簡単にグローバル展開とさせていただきます。SMKは何の会社かと申しますと、作ってるのは電子部品で、販売先は主に映像、音響メディア、通信メディアです。生産は世界の11箇所。アジアが主力で中国、マレーシア、フィリピン、韓国、日本があります。付加価値製品は日本で作り、開発は東京本社、神奈川県の大和工場、富山開発センターでやっています。最近非常に人数を増やしているのがチャイナテクノロジーセンターで40人ぐらいになりました。そのほかアメリカのサンディエゴにR&Dセンターを置いておまして、こちらに30人ぐらい、メキシコのティファナにやはり30人ぐらいいます。

日本の電子部品がどの位世界のマーケットでシェアを取っているかということ、2008年は約23兆円のマーケットに対して日系が10兆円、43%取っています。セットでのシェアは日本のセットメーカー、ソニーさん、東芝さん、日立さん、松下さんは昔は70%ぐらい取ってたんですけど今はもう30%ぐらい。当社のお得意先の日系、外資系の別に10年間のトレンドをみますと、2003年には70%は日本のお得意先だったのが2007年に5割を切り、2008年には45%を切りました。今期は更に日系のシェアは落ちると思います。結局日系の需要が減ったんですね。ノキア、SEMCO、エコスターが3大得意先で全部外資系です。電子部品産業は成長するためにはどうしても外資系で成長しなきゃいけない。幸いそれに成功したのが2008年3月までの実績で、グローバル化の一つの流れとして簡単に言いますと、注文をとるところ、生産するところ、納品して売り上げが立つところが皆違う。注文、デザインからものを作って、世界中の得意先の指定する取め先へ取めて、全体としてはノキアさんのビジネスというふうにするわけです。サプライティア

マネージメントと呼んでいますが、それをするいろんな能力がいるわけです。

人員構成は工場のある中国が圧倒的に多い。日本はどんどん少なくなって1200人ぐらい。管理職は課長以上が175人で1万5千人をマネージメントしています。課長職以下では日本人の比率が70%近くに減っています。増えたのは中国。アメリカも結構増えて60人ぐらい。理科系と文科系の比率では日本は理科系が非常に多い。どうしても技術集約になりますので、理科系採ったからといってデザイナーだけやるんじゃないで、営業も製作管理もサブライマネージメントもやる。完全に文科系が占める分野は経理ぐらいで人事も理系じゃないとやれない。1999年には世界中の213校から採用していたんですが、2008年には347校から採用しています。日本の優秀な学生を採らない代わりに海外で優秀な学生を採ろうという我々の10年間の努力の結果です。



最後に、これからどうなるのかということですが、そうは言ってもやはり日本人は非常に優秀だと思います。ただその優秀さを発揮するのがなかなか難しいんですね。特に日本の行政、政治制度、いろんなビジネスの社会制度が非常に遅いというのが我々の業界の常識です。結論だけ言うとやはりアジアをベースとした世界市場へのアクセスというのがあるんじゃないか。今の不況が回復したあと、やはり新しいパラダイム、環境配慮型とか省エネでの新しい市場、新しい製品ということになると思います。いいお知恵あったらお聞かせください。